

み  
す  
つ  
け  
た  
う  
ん



～コミュニティ・シアターというまちの仕組み～ No.

聞きなれない言葉ではないでしょうか？ <コミュニティ・シネマ>とも言ったりしますが、大きな映画館では上映されないドキュメンタリー映画やミニシアター系作品を中心に、地域の商店街や市民、NPO 団体、ときに行政が担い手となって上映・運営する映画館のことです。商業的映画館より「まちづくり」を意識し、映画鑑賞の機会づくりはもちろん、コミュニティの交流の場としてのカフェ機能を有したり、ワークショップに取り組んだりする地域密着型映画館——この夏、このまちで、そんな上映活動<ここ de シネマ>を開幕するにあたり、北区上中里の駅前にオープンした<Art Space Chupki>をのぞきに行ってきました。こちらは、「バリアフリー映画鑑賞推進団体シティ・ライツ」の運営する常設上映館です。



## 自然の光さすバリアフリー映画館=チュプキ



京浜東北線・上中里駅改札口から徒歩 20 秒。可愛らしいビルの3階が、「シティ・ライツ」さんの常設映画館<チュプキ>。アイヌ語で「自然の光」という意味だそうですが、その大きな特色は、いつでも音声ガイド付き上映を行っているということです。

「シティ・ライツ」さんは、映画の場面を解説する副音声ガイドをつかったり、バリアフリー上映会を企画するなど、視覚に障がいのある方とともに映画を楽しむための活動をされてきました。ですから、いつでも音声ガイド付きで上映している<チュプキ>は、いわば「シティ・ライツ」さんの夢の実現でもあります。

10人そこそで満席になりそうな館内。スクリーン前はなんと畳敷のステージ。2方向に延びる階段のあるスペースは天井が高く、確かに「自然の光」が天井からそそいでくるみたいでした。

お訪ねした日の上映作品はドキュメンタリー映画『トーク・バック』。入場してすぐに渡されたのはドリンクとラジオ。好みによって、ラジオで字幕読み上げの音声と場面描写の音声ガイドを聞きます。ガイド付き映画鑑賞は、眼が不自由かどうかに関わりなく作品理解の助けになるし、ガイドづ



畳のステージ上、手前に坂上香監督、奥に若干25歳の支配人・佐藤さん。壁際にカメラで記録する「シティ・ライツ」代表の平塚千穂子さん。平塚さんは、年に1回相模原にお見えになり、相模原視覚障害者協会主催のバリアフリー上映会を手助けしてくださっています！

くりの勉強になります。何しろ、音声ガイドには正解も完成もありませんから。上映終了後には、<チュプキ>の若き支配人・佐藤浩章さんの司会により、監督・坂上香さんのトークがありました。それも観客全員で感想や意見をかわすフリー・トーク。たっぷり2時間近くも坂上監督まじえてのトークに、同じ映画を鑑賞したからこそ共有できる時間の楽しさ、その会話から広がる話題からこぼれる「気づき」。これこそ、コミュニティ・シアターの醍醐味だと感じ入ったのでした。



この日の上映作品「トーク・バック」は女性イヌ患者たちが清濁とういし、自分と向き合い、ありのままの自分を肯定していく中で産生していくのを肯定したドキュメンタリーとして、重くも希望のありかを見出していた。オススメ。

### 新百合ヶ丘にあるコミュニティ・シアター ～川崎アートセンター アルテリオ～

<チュプキ>は北区にあります。近所にあるコミュニティ・シアターとして川崎市立施設である<アルテリオ>をご紹介します。相模大野駅から急行二つ目「新百合ヶ丘駅」から歩いてすぐ。小劇場と映画館をかかえ、川崎市民に多様な芸術環境を提供しています。<KAWASAKI しんゆり映画祭>を開催し、バリアフリー上映会を企画するだけでなく、映画館を運営する「NPO 法人 KAWASAKI アーツ」さんはガイド制作にも取り組み、耳の不自由な方のための同期システムを備え、音声ガイド制作の録音室もある先進的拠点になっています。

- 小田急線新百合ヶ丘駅 北口徒歩3分
- 川崎市麻生区万福寺 6-7-1
- TEL 044-955-0107



…かくて、ここでずっと暮らしたい願いを込めて  
私たちが主催するコミュニティ・シアター●

### ここdeシネマを開催します。

※第1回は、クールシェアイベントを兼ねた『ある精肉店のはなし』上映です。  
※私たちに、常設映画館がありませんので  
当面、グリーンホール相模大野の多目的ホールを定例会場としていく予定です。

広い海は基地をつくるためにあるんじゃない

高い空は戦闘機が飛ぶためにあるんじゃない

「ストロボ撮影法」をまねて、「高学年生の少女のスピーチ」から

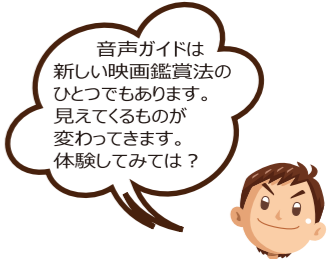
写真：会場となった相模大野中央公園とアルテリオ。ウオーク（2015年7月31日撮影）



**ここ de シネマ** は、原則としてバリアフリー上映をめざしています。「聞こえない」「見えない」という個性をお持ちの方もいらっしゃるでしょう。年を取ったり病気のせいで、いつの間にか、「聞こえづらく」「見えづらく」なってしまって映画を楽しむ気持ちがなくなっている方もおいでかもしれません。「このまちで このまちの人と一緒に」が **ここ de シネマ** の理念です。具体的には、耳の不自由な方のための字幕付き、目の不自由な方のための音声ガイドを付けて上映します。もちろん、どなたでもこの字幕・音声ガイド付きで鑑賞できます。同じ映画を観て、このまちのあちらこちらで、その感想をおしゃべりできたらステキ！ だから、バリアフリー。

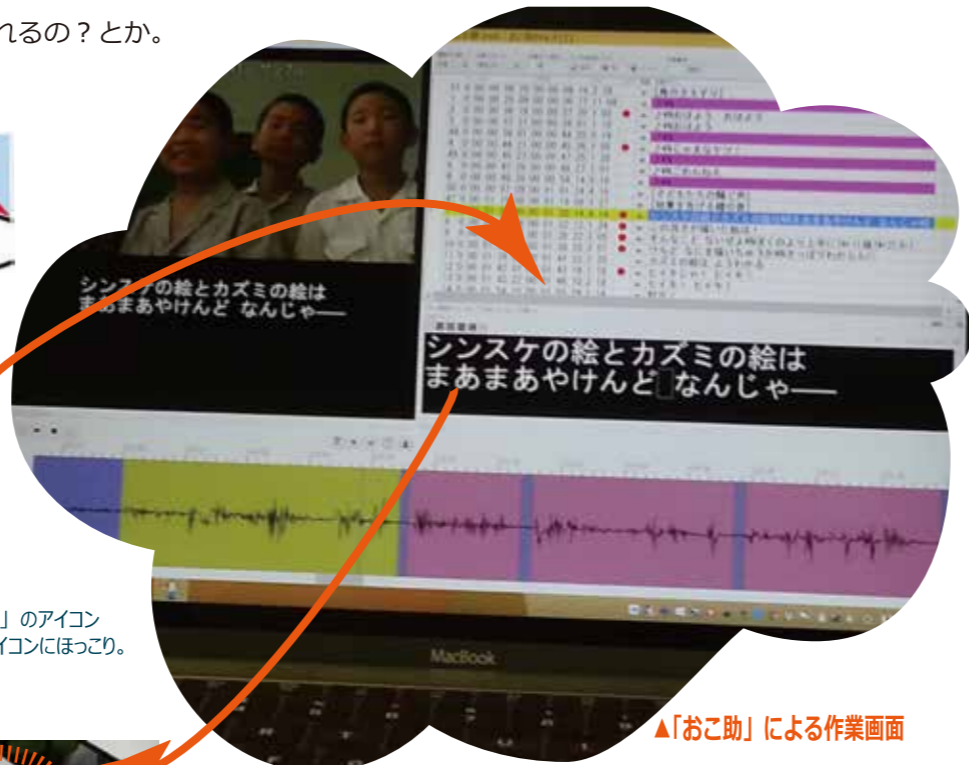
# バリアフリー上映って、な〜んだ?!

## このまちの人と一緒に映画を観るために――



字幕や音声ガイドと言っても、体験してみないとわかりませんね。どう作られ、どう提供されるものなのか。普通の映画鑑賞と同じになれるのか。そこで――

すべての人が映像作品を何不自由なく楽しむために「聴覚障がい者用字幕」と「視覚障がい者用音声ガイド」を提供、その普及によって、本当にバリアフリー社会を実現するために活動している **NPO 法人「メディア・アクセス・サポートセンター」** (通称 **MASC=マスク**) を訪ねました。



## 字幕はこんなふうにつくります

MASC が提供するソフト「おこ助」を使ってより簡単に字幕制作できます。作成された字幕は左手の受信機からメガネのような再生機へ。



▲「おこ助」のアイコン  
愛嬌のあるアイコンにほっこり。

映画館で3Dメガネを掛けたことのある方なら想像できるでしょうか。メガネの中、ちょうどスクリーンの下ぐらゐの位置に字幕が写し出されて、読めるようになっています。(実際に掛けてくださった川野さん)



▲「おこ助」による作業画面

●MASC では、字幕・音声ガイドの普及、制作者養成講座も開催しています。詳しくは、<http://np0-masc.org/> にて。日本映画製作者連盟が発表した 2014 年国内映画公開作品 615 本のうち、聴覚障がい者向けバリアフリー字幕付き作品はわずか 66 本。音声ガイドはさらに少なく 6 本にすぎません。(MASC 調べ) そんな現状のなか、MASC では、制作された字幕や音声ガイドのアーカイブ化を行い、配信サービスを行っています。

## MASCは、現在WEB上で297作品の字幕無料配信しています!

これは、サイト上で無料ダウンロードできる「おと見」というソフトを活用。DVD 再生にあわせて字幕を同期させて付けてくれるので、作品そのものに字幕が付いていなくてもOKなわけです。『アンパンマン』や『宇宙戦艦ヤマト』などのアニメから邦画まで楽しめますよ。

**memo 障害者差別解消法と字幕・音声ガイド制作者**  
2013年に障害者差別解消法が制定されて、映画の視聴環境についても対象となって、2017年から公共放送に100%の字幕、10%の音声ガイド付与がなされることになりました。衛星放送は現在108社。ケーブルTV局は全国で556社にのぼり、圧倒的に字幕・音声ガイドを制作できる人が足りません。映画好きのみならず、ビジネス・チャンスとしても注目できそうです。

**memo アメリカのバリアフリー上映事情**  
メジャー・スタジオ (MPAA 加盟社) が 2010 年に公開した映画 140 本のうち、字幕付き作品は 120 本程度、音声ガイドは 140 本と全作品に付いていました。全米映画館主協会によると、全国のデジタル・スクリーンのうち少なくとも 53% は字幕と音声ガイド付きで上映できます。(2013年5月現在)



写真左は MASC 理事長の山上徹二郎さん、お隣は川野浩二事務局長。中野坂上にある MASC 事務所にて。映像配給会社【シグロ】の代表であり、映像プロデューサーでもある山上さんに映像に字幕や音声ガイドを付与することと映像作品との兼ね合いについてお訊ねしました。――映画が誕生してからわずか 120 年。文学とか絵画に比べたら生まれたてと言ってもいいくらいです。これから、映像がどうなっ

字幕も音声ガイドも映画の進化のプロセスにあるものです。  
【MASC・山上理事長】  
字幕を作るとき、いちばん大切にしているのはだれのために作るのか、ということです。  
【MASC・川野事務局長】

ていくかは予測できません。画そのものの進化であり深化としてバリアフリー化があるのだと強くうなづきました。行政の方からこんなふうに関われたことがあります。「障がいのある方が、本当に映画鑑賞したがつているんですか?」と。しかし、映画鑑賞の喜びは人としての権利です。パンを食べるように、様々な表現に触れるのはとても貴重です。自由に見聞きできる方も映画を観るのが嫌いな方があるように、聞こえなくても、見えなくても映画を好きな方はいます。自由な選択肢のあることがバリアフリーなのだ、改めて考えました。

FMラジオを88.5MHzにあわせて!

## 音声ガイドはFM送信機から

音声ガイドは映画のシナリオを起こし、台詞や音の間を縫って情景描写を言葉で伝えていくものです。右のような台本を作成し、録音。映像に合わせながらミニFM送信機(右写真)で電波を飛ばし、ひとりひとりが手にしたFMラジオで聞くというシステムで提供します。



送信せずに映画の音と一緒にスピーカーで流すオープン方式の提供や、録音せずに、まるで弁士のようにライブでガイドすることもあります。今回、送信機は「相模原市立視聴覚ライブラリ」からお借りしています。市が所有しているのですから、もっと市民が利用する機会を増やしたいものです。

※周波数は任意に設定できますが、周囲に影響を与えない88.5MHzが通常使われています。

今回の『ある精肉店のはなし』上映では、DVD上に字幕データがあるバリアフリー版DVDによる上映を行なっています。

●ストップ戦争法 7.31 大集会 in さがみはら



このまちに 1600 人のアピールウォーク！  
～ 沿道から

「がんばって！」の声も～



模擬店も屋台もない相模大野中央公園に 1000 人を超える人々が集まり、北口商店会から女子大通り、大野銀座商店街へと平和を求めるコールが響き、アピールウォークの列がつづきました。このまちにデモの列を見るのは、あの場外馬券売場誘致問題のときにもなかったし、記憶する限り初めてのことでした。私たち<NPO 法人ここずっと>は、「ここでずっとくらししていきたい」という願いのもとに立ちあがり、「ここでずっと」を実現するためには、まず、平和で安全でなければなりません。その思いのもと、7 月 31 日の集いの賛同団体となりました。政治課題をどんなに意識の外に追いやろうとしても、「まちのくらし」は、国の行方に運命づけられていると考えるからです。

夕方 6 時半からの集会に来られた、このまちの方の声を拾ってみました。  
— 様子を見てみようと思って出て来てみたの。とても国会前に行く元気はないけれど、近くだからね。  
— ほんと、様子を見に行くだけだよ。市会議員に誘われたしね。来たこと、内緒ね。  
— 居てもたってもいられず来たけど、デモは勘弁。足が痛くてね。えっ、もう 80 は超えてるよ。  
— 相模大野のまちはスゴいわねえ。こんなに集まるなんて。いいまちだねえ。  
— 高校生の子のスピーチ、良かったね。泣きそうだったワ。  
— 平和を孫に残したいの。80 歳だけど、この法案がダメになるまで頑張ってるわよ。  
— 孫が男の子だからね。止めたいんだよ。

見馴れた街角に見馴れた隣人たちの、見馴れないアピール・ウォークに、しかし、「このまち」が息づいているのを感じた時間になりました。

考えてみれば、神奈川は沖縄に次ぐ基地県です。しかも、在日米軍の司令塔ともなる重要施設が集まり、相模原市は旧市域の面積の 5% を基地に提供しているのです。駅前再開発が進み新しい住人を迎える一方で、高齢化の進むこのまちが、いつの間にか、かつて日本軍の軍部として、また、戦後は米軍基地のまちとしてあったことを忘れかけていた気がします。敗戦のとき、陸軍通信隊の伝書バトが処分されそうになって、このまちの人が可哀そうなハトたちをひそかに守ったこと、ベトナム戦争のときにこのまちで戦車の試走が行われ、米兵の死体を整えるバイトがあったこと、脱走した黒人兵がこのまちの中学校の校庭で逃げ回ったこと、そんななかベトナムに向かう戦車を止めようとして「夕焼けこやけ」と歌い出してその道を塞いだこと——。敗戦後 70 年目の今こそ思い出さねばならないことかもしれません。ここに、このまちのジャーナリスト、今は亡き西尾頭爾さんが書かれた絵本を紹介いたします。夏休みにお孫さんといっしょに読むのはいかがでしょうか？



『戦争は止まった 市民の力—1972年相模原の100日』文にしお けんじ 絵やまだ ひろみ A4版横 43ページ 出版社=アゴラさがみはら出版、定価=1,000円(送料込) 購入は ☎090-7908-6978 (アゴラ・山田) まで



クリップ・ボード



連続講座

《人口減少時代のハコモノのゆくえ》3回連続

主催：相模原市議会・颯爽の会 問合せ：☎042-682-6301 (野元事務所)

※第1回はすでに8月1日に終了していますが、それぞれ独立した講座として受講できます。

第2回 8/8 (ユニコムプラザ 14:00~16:30 予定)  
「実践！みんなで取り組む施設マネジメント～先進事例から学ぶ～」  
講師 池澤龍三氏 (一般財団法人) 建築保全センター-保全技術研究所第三研究部次長

第3回 8/22 (ソレイユさがみ 14:00~16:30 予定)  
「どうする？施設の費用負担～バランスシートで考える～」  
講師 松村俊英氏 ジャパンシステム株式会社 公共事業本部 コンサルティング部担当部長

※ここずっと主催・市民にとってのパートナーシップを考える連続講座は2015年7月をもって終了しましたが、同じテーマを視座を変えて考えるオススメの講座です。

ベトナムアンサンブル  
コンサート 2015  
相模原公演

— 枯葉剤被害者支援 —



【と き】10月26日(月)

開場 PM6:00

開演 PM6:30

【と ころ】相模原南市民ホール

【料 金】一般 2500円

【問合せ】☎042-741-0232 (金子事務所)

戦争を止めた相模原に、現在も、ベトナムのみなさんは独特の信頼と友情を寄せていると聞きます。ベトナムの人たちの気持ちは、私たちの励みになるし、武器によってではなくこんなふうアジアの国とつながり平和は作られるのだらうという教えにもなっています。いまなお枯葉剤被害に苦しむ人々への支援ともなる恒例のコンサートです。どうぞ、お運びください。



昨年10月より始まった「パートナーシップを考える連続講座(全10回)」も、今年7月に終了しました。

この講義録が10回目の意見交換会を除いた全9講座分をNPO法人ここずっとのホームページで公開しています。アドレスは↓  
<http://www.cocozutto.jp/event/2014renzokukouza.html>  
市民協働、指定者管理制度など自立した市民になるための資料としてお役立ていただけたら幸いです。

市民相談窓口も開いています。相談は☎042-745-0676へ。

訂正とお詫び

ここずたうん9号にて、毎月第2土曜日に伊勢丹デッキにて活動されている<戦争をさせない1000人委員会・相模原>さんが「JR相模原駅や橋本駅でも活動」と紹介しましたが、「JR橋本駅でも活動」の誤りでしたので訂正の上、お詫び申し上げます。

Information

ここdeシネマ

第1回『ある精肉店のはなし』に引き続き、下記の通り、上映会開催を予定しています。

<ここ de シネマ>はこのまちの”まちづくり”に寄与することも目的にしています。どうぞ、以下の機会にも活用ください。

●イベントの告知、情報フライヤーをお持ちください。お客様が自由にお取りいただけるようにします。●このまちの事業さんの皆さん、お店情報コーナーも用意します。チラシ置きします。●市民活動情報もお寄せください。●映画好きの方のオフ会もどんどん応援します。

第2回 2015年11月28日(土)

PM7:00 上映開始

第3回 2016年 2月13日(土)

PM7:00 上映開始

第2回目は、沖縄をテーマとする話題の新作の上映に取り組み予定です。

このまちの人たちによって運営されるのがここ de シネマの特色です。

観たい作品、劇映画、ドキュメンタリーを問わずリクエストください。

バリアフリー上映が原則です。字幕・音声ガイドがない作品については、制作することも視野に入れています。

そんな、こんなで関心をお持ちください。あるいは、運営スタッフにご参加ください。

リクエスト、スタッフ申込み、字幕・音声ガイド制作志望の方、下記にご連絡ください。

※なお、今年度第3回までのここ de シネマについては、さがみはら市民協働ファンド・ゆめの芽の助成を受けています。

『フリー情報紙 ここずたうん』No.10

【発行日】2015年8月7日



【発行者】NPO法人 ここずっと

〒252-0303 相模大野9-6-18

ここずたうん編集室



ご意見、投稿、記者志望者は

ここずたうん編集室へ

【TEL】042-745-0676 【FAX】042-742-0447

【E-mail】info@cocozutto.jp